

平成15年度第5回理事会議事概要

日 時 平成15年7月25日（金） 13：30～14：40

場 所 特別会議室

出席者	理事長	田 中	潔
	理事（企画・総務担当）	藤 原	敬
	理事（森林研究担当）	桜 井	尚 武
	理事（林業・木材産業研究担当）	池 田	俊 彌
	監事	今 村	清 光
	監事	井 上	徹 雄
	企画調整部長	石 塚	和 裕
	総務部長	周 藤	眞
	事務局（企画科長）	藤 井	智 之
	事務局（総務課長）	加 藤	秀 春

1. 開会

2. 議事

（1）第12回独立行政法人評価委員会林野分科会概要報告について

（藤原理事）

<資料1：第12回独立行政法人評価委員会林野分科会議事次第により説明>

会議では、組織評価全体についてA評価、28ある評価単位のうち、2つについてb評価という説明を受けた。bとなった具体的な項目は、「森林における生物多様性の保全に関する研究」、「森林の新たな利用を推進し、山村振興に資する研究」の2つの研究分野であり、評価内容についてのコメントは、委員長による調整後に正式な文書で通知されるとのことである。口頭で説明のあったところでは、年度計画は達成しているとのことであるが、中期計画達成の観点からすると2年目の達成度として不十分ではないかという意見の中でbということであった。その他の総括的意見として、評価結果等の外部に対する説明責任、世の中のいろいろなニーズを敏感に感じ取って、研究所の運営に生かすこと等の指摘があった。

(今村監事)

年度計画の達成率については良いが、もっと他に基本的な研究課題についての認識を問われているような気がする。生物多様性については、どのように理解して、どのような危機意識をもって、どこが対処しなければならないのかなど、きちっとした問題意識をもって説明できていなかったのではないかという気がする。山村の問題にしても、今までやってきたことの説明だけで、それがどのように統合されているのかというところを問われているのではないか。このあたりの問題点をきちっと整理して、方向性を出していくことが大切と思う。

(田中理事長)

今までは評価について年度計画の達成度を問われていたが、今回の結果からすると、委員の視点は、研究の課題・目標等にあり、こうした面で説明不足のところがあったと思う。今後は、評価シートの中に問題点や方向性をきちっと書き込めるようなものに様式等について検討しなければならないと思う。

(桜井理事)

当初は、各研究分野での目標を立てて、それに対してどのような方向で進めていくかを考えていたが、評価のシステム上からは、年度計画の結果のみを重視することになった面がある。生物多様性や山村の関係は、研究分野の方向でなく、個別の課題を中心に進めているところもある。

(今村監事)

生物多様性は、最近よく話題にあがることであり、分かっているようで分かっていない部分もあるので、そこのところをきちっとした方が良いと思う。

(池田理事)

「森林における生物多様性の保全に関する研究」は分野であって、その中に何をするかという研究課題は示してあるが、その中身についての細かな説明については、今まで公式の文書にでることなく、課題だけ設定されている状態であった。中期計画全体で言えることだが、そこのところの説明が十分でないところはある。

(井上監事)

生物多様性の問題は、確かにもっと整理する必要があると思う。分野や課題だけの設定だけでは、研究の中身まではつかめない。例えば、遺伝的多様性、種多様性、生態系多様

性といった大きなレベルがあって、それぞれどのようなレベルでモニタリングするか、どのようなになっているのかなど、そのところが個別の課題だけでは分かりにくい。また、こういう戦略のもとで、この部分を管理しているというところを説明すれば、評価委員も理解しやすいのではないか。例えば、政府として「生物多様性国家戦略」を定めているので、これを踏まえて、研究としてこういうことをして、保全管理に結びつけていこうとしているといったことを説明するのも1つの方法だと思う。

(田中理事長)

評価委員会として2回目だが、去年はたくさん資料を出して、その文言のチェックだけとなり、本質的な議論はほとんど出来なかった。今年は資料を改善してサマリーで対応したが、サマリーだけでは分からないということもあったと思う。来年は、一枚の評価シートで5年間の中のどこまで進んでいるか、分かるように示すよう評価委員からの意見もあったので、そのような改善をしなければならない。評価システムについては、少しずつ良くなって、5年経ってようやく評価システムが定着するものだと思う。

(今村監事)

生物多様性のように大きな課題の場合、5年間でこれだけやれるが、まだ先にこういうものをやっていくというような、先のことまで描いておくことも必要ではないか。

(田中理事長)

戦略というのは10年という形で固めており、現中期目標はその前半5年という位置付けである。おそらく、今度は中期計画終了時点で、もう1回10年先までの戦略をたて、その前半5年という形でつなげていくと予想される。今も11の研究分野を森林総研の総力を挙げてやっているが、これを全部5年で終わらせ、あとはニューアイデアで全部違うものを出すとはならないのではないか。

(池田理事)

現中期目標期間の組み立ては、5年間の目標があって、目標と計画がほとんど同じだというのが問題になっており、目標があってそのうちの一部を計画でやるというものになっていないのが弱みである。いずれにしても、10年という大きな枠組みで動いていくという風に考えている。

(田中理事長)

これから評価委員会は最終決定に向けて動いていくと聞いているが、いろいろ頂いたコ

メントに対する研究所としての対処方針をまとめておかなければならない。なお、評価委員会での議事内容も公開されるので、早急な対応が必要である。

(池田理事)

ビジョン、課題と実際やっていることのつながりを明確にすること、現場のニーズを十分吸収しているかという意見があるので、それにどういう努力をしているかというのを明らかにするといったところが総論となるだろう。

(今村監事)

担当する研究者も、そのこのところの意識を持って対応することが大切だと思う。

(池田理事)

早急に方針を作って、所員に示すという方向で検討しているところである。

(藤原理事)

財務諸表について、大臣承認前に評価委員会の審議を受けるということで審議された。特段、異議があった訳ではないが、いくつかのコメントがあった。例えば、セグメント情報の中の注記に、それぞれのセグメントに属する人員などを入れてはどうかというものがあった。

(池田理事)

関連情報をもっと詳しく明記するということか。

(藤原理事)

そのとおりである。

(田中理事長)

評価委員会の結果については、正式な文書で行われるが、この報告をもって了解する。
なお、公表については、正式に評価の通知があった後で行う。

(2) 平成15年度一般職員・技術専門職員の昇格について

(周藤総務部長)

<資料2：平成15年度一般職員・技術専門職員の昇格についてにより説明>

(田中理事長)

7月1日、10月1日と記載してあるもの以外は4月1日ということか。

(周藤総務部長)

そのとおりである。

(田中理事長)

この報告をもって了解する。

(3) その他

(周藤総務部長)

9月10日、11日に会計検査があり、4名の検査官が来所されとのことである。

(田中理事長)

この報告をもって了解する。

次回第6回の理事会は8月29日(金)を予定する。

3. 閉会